

第51期・2010年度
事業報告書
(2010年4月1日～2011年3月31日)

社団法人 出版文化国際交流会

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-2-1

Tel. 03-3291-5685 Fax. 03-3233-3645

<http://www.pace.or.jp>

2010年度事業報告

はじめに

この度の東日本大震災により犠牲・被災された方々に心よりお見舞い申しあげますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申しあげます。フランクフルト・ブックフェア総裁のユルゲン・ボース氏からも心温まるお見舞いの手紙が本会に寄せられました。

2010年度は本会にとりまして大きな転換の年であったと申しあげられると存じます。昨年6月の通常総会にて監事代表より本会の財政事情の問題点について指摘を受け、問題点の洗い出しと同時に可能な限りの対策を講じることとし、7月20日に臨時総会を開催、修正事業計画、修正収支予算の承認をいただきました。その対策の柱として、従来は年4回に分けてお願いしていた会費のご請求を第2期～4期分を一括でお願いすることとし、ほとんどの会員社からご協力をいただきました。皆さまがたに改めて厚く御礼を申しあげます。

2008年12月に申請期間5年の限定で始まった新公益法人制度改革については、2010年12月開催の理事会、評議員会で一般社団法人への移行認可を目指すことが承認されました。その申請を2011年度の秋とし、具体的な準備を進めています。

独立行政法人国際交流基金との共催事業である国際図書展参加事業は、本年度は第36回ブエノスアイレス国際図書展を皮切りとして14件に参加しました。ただし専門家派遣は予定の5件を第16回ブックワールド・プラハの1件のみとしました。

第62回フランクフルト・ブックフェアは、テーマ国が「アルゼンチン」として開催されましたが、本会では例年どおり6号館1階に日本会場を構成しました。単独出展社、7社のお世話と同時に日本インフォメーション・センターを国際交流基金と共催で設置し、来場者の様々な要請、問合わせに応接しました。同時に面積を半減しましたが、隣接して共同展示場を設け、出版梓会、自然科学書協会、大学出版部協会、日本児童図書出版協会からの出展図書を展示・紹介しました。更に3号館のコミック・センターでは2社の出展のお世話をしました。

また本会独自の出展として第17回東京国際ブックフェアに参加、在日アルゼンチン大使館の協力を得て、同国の出版文化の広報を行ないました。

広報活動としましては、Web上のホームページによる広報に切り替える方針のもと、『出版文化国際交流会会報』及『国際ブックフェア 現場からの報告』の発行はとり止めました。一方、国際交流基金との共同発行の英文版・日本出版界の実用ガイド*Practical Guide to Publishing in Japan 2010*は発行を継続、内外の関係者に広く配布致しました。

国際ブックフェア関連事業では、「フランクフルト・ブックフェア世話人会」の運営、さらには海外出版事情視察団の編成ではフランクフルト・ブックフェアの開催時期にあわせて視察団を編成、ビジネスコースと合わせて22名の参加をいただきました。

三笠宮崇仁親王殿下におかれては本会の前身であるアジア文化交流出版会を改め、出版文化国際交流会として発足した1956年にご就任いただき、以来半世紀を越えて名誉会長を務めていただきましたが、この度ご高齢による辞任のお申し出をいただき、12月開催の理事会、評議員会の承認を経た上で、2010年12月17日をもって辞任されました。ここに改めて深甚の感謝の意を申しあげたいと存じます。

1993年より導入の納本制度は、会員の皆様のご理解、ご協力を頂き確実に進展しており、心より感謝申し上げます。蓄積された特別賦課会費は、わが国の出版文化の紹介事業に有効に活用させていただきますので、引き続きのご協力をお願い申し上げます。

インターネットの時代を迎えたとはいえ、今日なお多くの国際ブックフェアが世界各地で開催されておりますが、日本の参加が強く望まれております。本会としては、外務省の協力のもと、独立行政法人国際交流基金との共催事業として国際ブックフェアへの参加に、また出版文化の交流事業に更なる努力を重ねていく所存であります。

会員の方々、関係省庁、諸団体の皆様のご支援ご協力に深謝いたしますと共に、今後とも変わらぬご後援を心よりお願い申し上げます。

2011年6月20日

社団法人 出版文化国際交流会
会長 江草 忠敬

I. 「事業委員会、財政・公益法人制度改革対策委員会」の運営

2013年に本会創立60周年を迎えるにあたり、今期の役員改選を機に両委員会で中長期的な事業計画の策定に着手するという構想を抱きつつも、申請期限を2年後に控える新公益法人制度改革への対応を優先することとした。12月17日開催の理事会、評議員会にて公益社団法人と一般社団法人の基本的性格、法制度、運営上の比較、さらに税制上の違いを対比表を用いて説明、また業界他団体の準備状況、本会の正副会長会議での検討結果を踏まえ、本会としては「一般社団法人」への移行申請を目指したいと提案し、承認をいただいた。

これを受け、2011年度秋の申請を目標に具体的な準備を進めることとした。

II. 広報活動

1. 会報の発行(隔月刊)

修正事業計画に基づき、ホームページ上の広報に切り替えた。

2. 『世界の国際ブックフェア：現場からの報告 No. 18』の発行

修正事業計画に基づき、ホームページ上の広報に切り替えた。

3. *Practical Guide to Publishing in Japan 2010* の発行

英文版・日本出版界の実用ガイド

A5判変型、本文60頁、発行：6,000部

独立行政法人国際交流基金との共同出版

日本出版界の概要と輸出入統計、東京国際ブックフェアの実情、前年度のベストセラー図書の紹介等を含む最近の動向、翻訳出版権・図書の売り込みや購入等の商取引につながる基本情報、翻訳出版助成機関の紹介、主要な関連機関、団体の住所一覧等、外国の出版関係者に有用な情報を英文でコンパクトに紹介する冊子。

本会が参加する各国の国際ブックフェアで配布する(各200～500部)。在外公館、国際交流基金海外事務所での現地配布資料、来日外国出版人への啓蒙資料としても活用している。

4. 『フランクフルト・ブックフェア』(手引書)

B5判、発行：100部

世界最大のブックフェアを、その歴史から最新の開催状況までコンパクトにまとめた小冊子。簡易製本の形にして、さらに活用しやすくなった。会員、関係出版社、関連企業、視察団参加者へ配布。

5. ホームページによる広報

ホームページ上で本会の活動を紹介している。会員社ホームページへのリンク等の基本情報とともに、国際ブックフェア開催日一覧や派遣専門家の最新報告、さらに海外出版事情視察旅行企画の案内等を行っている。

今年度は、国際ブックフェアの来場者、あるいは日本文化に関心を寄せる一般市民への便宜を図るため、On-Line書店、英文版元へのリンク機能を加えた。

III. 国際ブックフェアへの参加

1. 出展参加

共催機関である国際交流基金に対し本会の財政事情を説明し、その了解を得た上で、参加国際ブックフェアの数は減らさないが本会の分担項目・金額を見直すこととした。

特に下期参加図書展の専門家派遣4件を中止したが、モスクワの第12回国際知的図書展non/fictionの専門家派遣については全額国際交流基金負担で実施することで了解をいただいた。

結果として、本年度の参加国際図書展は追加案件のアブダビを含め15件、このうち専門家派遣はプラハの1件、事務局派遣はソウルとフランクフルトの2件となった。

(1) 本会が参加した国際ブックフェアの名称・会期・派遣専門家〔敬称略〕

- | | |
|---|----------------|
| 1. 第36回ブエノスアイレス国際ブックフェア | 4. 22～5. 10 |
| 2. 第17回ブダペスト国際ブックフェア | 4. 22～25 |
| 3. 第23回テヘラン国際ブックフェア | 5. 7～16 |
| 4. 第16回ソウル国際ブックフェア
梶原千歳、佐藤佳苗 (PACE事務局) | 5. 12～16 |
| 5. 第16回ブックワールド・プラハ
池満幸一(フレーベル館) | 5. 13～16 |
| 6. 第55回ワルシャワ国際ブックフェア | 5. 28～31 |
| 7. 第17回東京国際ブックフェア | 7. 8～11 |
| 8. 第21回サンパウロ国際ブックフェア | 8. 12～22 |
| 9. 第62回フランクフルト・ブックフェア
梶原千歳、佐藤佳苗 (PACE事務局)、視察団を編成 | 10. 6～10 |
| 10. 第55回ベオグラード国際ブックフェア(セルビア) | 10. 25～31 |
| 11. 第21回ドーハ国際ブックフェア(カタール) | 11. 25～12. 5 |
| 12. 第12回ノン・フィクション国際ブックフェア(モスクワ)
(国際交流基金の全額負担にて作家の黒川 創氏を派遣) | 12. 1～5 |
| 13. 第17回出版と本の文化サロン カサブランカ | H23. 2. 11～20 |
| 14. 第14回バルティック・ブックフェスティバル(ラトビア) | H23. 3. 3～6 |
| 15. 第21回アブダビ国際ブックフェア(アラブ首長国連邦) | 2010. 3. 15～20 |

[注] 7. のみが本会の独自事業、他は国際交流基金との共催事業

(2) 東京国際ブックフェア 2010 (出版文化国際交流会の独自事業)

会期：2010年7月8日(木)-11日(日)

リトアニア、キューバに続き、本年度は在日アルゼンチン大使館の協力を得て、同国出版文化の紹介を本会のブースで行なった。会期初日には開会式に参列されたパブロ・ロドリゲス大使が本会ブースに立ち寄られた。

展示・装飾については同大使館文化部が中心となり、写真集、文学書、ガイドブック等、約100点をポスター等とともに展示。また壁面を利用してビデオ広報も実施した。さらに一部の図書、関連グッズについては同大使館紹介の業者により販売を行ない人気を博した。終了後、同大使館より丁寧な礼状が寄せられた。

(3) ソウル国際ブックフェア 2010

会期：2010年5月12日(水)-16日(日)

昨年度の「日本年」を受け、本年度は通常の参加態勢となった。出展図書の選書に当っては在ソウルの日本文化センターからの意見を参考にした。特に2010年が日本による韓国併合から100年目に当り、日韓関係史関連の図書を意識した展示も行なった。来場者への図書販売については今年度も教保文庫の協力をいただき多くの成果をあげることができた。

国際交流基金と本会の共催ブース以外に単独出展の文藝春秋、ポプラ社、トーハン、シーエムシー出版、日本聖書協会、ホビージャパンのお世話を行い、会場内に日本通りを形成した。

(4) 第62回フランクフルト・ブックフェア (一部国際交流基金との共催事業)

会期：2010年10月6日(木)-10日(日)

今年は建国200年を迎えた南米の国、アルゼンチンがテーマ国に選ばれた。フォーラム館では、アルゼンチンの歴代の作家、激動の歴史、豊かな国土がアピールされ、世界各国で出版されるアルゼンチンに関する本も多数集められた。5号館には、ナショナル・ブースを設置。出版社100社、作家70名が参加し、“Argentina, culture in motion”をスローガンに300のイベントが開催された。

日本からの出展社は計41社、本会の取りまとめる6号館以外には4号館の学術・専門書や8号館の英語圏、その他アートブック会場への参加が目立つ。エージェンツの参加は5社であった。ブースを持たないトレード・ビジターも多く、日本から著作権担当者や編集者等が多数出張していた。

- 1) 本会では昨年と同様6号館1階(Hall 6.0)に国際交流基金と共同で総合的な「日本インフォメーション・センター」を設置するとともに隣接して16㎡の本会共同ブースを置いた。また周辺に7社の各社単独ブースを配し日本会場を構成した。
- 2) 日本インフォメーションセンターでは外国出展関係者からの様々な照会や要望に応えるとともに、*Practical Guide to Publishing in Japan* (日本出版界の実用ガイド)や*Japanese Book News* (国際交流基金発行の書誌情報誌)の資料などを提供した。会期初日から3日間はビジネス・デイ、土日は一般公開だが、隣に広大な展示を誇る中国出展者からの照会(売り買い、また自社の紹介)を筆頭に多くの国の出版関係者の応接に追われた。土日は来場者の様相も変わり、家族連れやコスプレのマンガファンたちにインターネットで学べる日本語サイトや日本の図書の購入方法などを案内した。
- 3) スペースを32㎡から16㎡へと半減させた共同展示場では出版4団体の図書109社214点を紹介した。各団体のご協力のもと、それぞれの会員社から出展図書を募り、日本の学術・専門書、児童書を展示した。多々ある出展社の中でも日本の

幅広い専門書を扱うのはここだけ、また児童書は海外からの注目も高い。出版4団体の出展社数・展示図書数は以下のとおりである。

出版粋会	40社 80点
自然科学書協会	26社 52点
大学出版部協会	28部 52点
日本児童図書出版協会	15社 30点

同時に㈱ディスカヴァー21が初めてコーナー出展、更に岩波書店、鹿嶋国際著作権事務所に商談スペースとして場所を提供した(ディスカヴァー21からは来年度、単独出展の申込みを受けている)。この他、国際交流基金の資金協力を得て、英文図書、ポップカルチャー系や手芸等の図書を展示し、一般来場者にアピールした。予想したとおり反響は高く、購入希望の声も多数寄せられた。今回現地書店との関係も築かれたので来年にはブースでの販売が実現できそうである。

- 5) 本会の取りまとめにより、下記9社が単独出展を行った。

6号館 日本会場(順不同)

㈱オーム社、㈱学研マーケティング、㈱講談社、㈱小学館、大日本印刷、リードエグジビションジャパン㈱、㈱日本著作権輸出センター

3号館 コミック・センター

㈱角川書店、㈱白泉社

終了後の出展社アンケートによると、今年のビジネス成果は概ね良いとの回答が多かった。経費節減のため出張者を減少させ少数精鋭の態勢で臨む社もあれば、国内市場が不振の今こそ海外に進出するチャンスとばかりに各部署に呼びかけ出張者を増強した社もあった。各担当者はホール間の移動時間にも神経を使いながら商談を精力的にこなしていたが、各社のブックフェアに対する捉え方も様々である。実際の交渉もさることながら顔合わせを大事にする、また普段のメールや電話では不十分な細部の詰めを行う、さらに継続してブース出展することにより信頼性に繋がるというプレゼンス等、世界各国からの関係者が集う最大のブックフェアであるフランクフルト・ブックフェアを、インターネット全盛の時代とはいえ決して軽視できない。

- 6) 世界各国に支部を持つ「いけばなインターナショナル」のフランクフルト・チャプターの協力をいただき、今年も日本会場の各スタンドをいけばなで彩っていただいた。
- 7) 今年もフランクフルト・ブックフェアのユルゲン・ボース総裁と会見の機会をいただいたが、本会理事の竹生修己(オーム社社長)、日本書籍出版協会の樋口清一事務局長、本会事務局梶原千歳が出席した。情報交換と同時に来年に向けて引き続き日本会場の同配置を要望、更なる出展環境の整備を申し入れた。
- 8) 在フランクフルト総領事館、また当地で日本文化、日本語の普及に長年実績を上げている日本語普及センターを訪問、今後の協力関係を改めてお願いした。また国際交流基金のケルン日本文化会館より上田浩二館長、松本健志副館長、山口真樹子運営専門員が来場、今後の出展のあり方について意見交換を行った。
- 9) ハッピーアワー・パーティーの企画については、今年度は中止した。

2. 国際ブックフェア関連事業

(1)「フランクフルト・ブックフェア出展社・世話人会」の運営

諮問機関として世話人7名と事務局による運営、2010年9月9日(木)、委員6名(欠席1名)の出席を得て第62回同ブックフェア全体の概況と日本の参加状況について報告・検討を行った。また2010年11月19日(金)には委員6名(欠席2名)にて終了後の委員会を開催した。

日本出展社からのアンケート結果も参考にしつつ同ブックフェアの総括、更に次回に向けた出展環境改善等について討議した。後日、竹生修己(オーム社)、加治屋文祥(小学館)の両委員と交流会の横手多仁男専務理事連名による要請文をフランクフルト・ブックフェアのユルゲン・ボース総裁へ送付した。

[世話人会委員一拡大委員会]

竹生修己(オーム社)、加治屋文祥(小学館)、吉田ゆりか(日本著作権輸出センター)、キム・ベデヌ(講談社)、沼田雄一(学習研究社)、鹿嶋明(鹿嶋国際著作権事務所)、今井晃(大日本印刷)、横手多仁男(出版文化国際交流会)(順不動、敬称略)

(2)海外の出版事情視察団の編成

- 1)「フランクフルト・ブックフェア視察」コース 参加：14名
- 2)「フランクフルト・ブックフェア・ビジネス」コース 参加：8名

(3)ロシア科学アカデミー付属図書館「三笠宮文庫」への図書寄贈

同文庫拡充計画に従い、同文庫への図書寄贈を実施しているが、フランクフルト・ブックフェアの本会共同ブースへ出展協力をいただいている出版3団体(自然科学書協会、出版粋会、大学出版部協会)の図書計94社184冊は、2008-9年度の過去2年分と一緒に送付、寄贈することとした。

IV. 関連活動と報告事項

1.「第44回造本装幀コンクール」を後援

本会では1985年(昭和60年)の第20回より同コンクールに後援団体として参加しているが、今回は出版文化国際交流会賞に柳菴艸堂刊行の『海路』を選定した。入賞作品34点は10月開催のフランクフルト・ブックフェアで他の国の出品作品と共に特別展示された後、ライプチヒ・ブックフェア開催時(2011年3月)に実施の「世界で最も美しい本展」のコンクールに出品された。今回は残念ながら日本の出品図書の受賞はなかった。

2. 納本制度による賦課会費

1993年3月より導入の「納本制度」では、本年度は41社のご協力により5,509冊、総額7,544,475円(予算7,800,000円)が特別賦課会費として納付された。

3. 会議記録

総会 3回

2010年6月7日(月) 通常総会

2009年度事業報告、2009年度決算報告

2010年7月20日(火) 臨時総会

2010年度修正事業計画案、2010年度修正収支予算案

2010年9月29日(木) 臨時総会

2010年度上半期事業報告並びに収支予測、理事・評議員選任の件

2011年3月24日(木) 中止

3月11日に発生した東日本大震災の影響をうけた交通混乱、福島原子力発電所の放射能漏れの不安等の世情を鑑み、総会を中止した。外務省の指示もあり、2011年度事業計画案、同収支予算案については次回の総会にて追認を得ることとした。

理事会 5回

- 2010年6月7日(月) 2009年度事業報告、2009年度決算報告
- 2010年7月20日(火) 2010年度修正事業計画案、2010年度修正収支予算案
- 2010年7月20日(火) 役員互選
- 2010年9月29日(木) 2010年度上半期事業報告並びに収支予測、
理事・評議員選任
- 2010年12月17日(金) 2010年度第3四半期事業報告並びに収支予測
公益法人制度改革への対応の件、名誉会長三笠宮殿下お申し出の件
副会長増員の件
- 2011年3月24日(木) 中止(総会と同じ事情)

評議員会 4回

- 2010年6月7日(月) 2009年度事業報告、2009年度決算報告
- 2010年7月20日(火) 2010年度修正事業計画案、2010年度修正収支予算案
- 2010年9月29日(木) 2010年度上半期事業報告並びに収支予測、
理事・評議員選任
- 2010年12月17日(金) 2010年度第3四半期事業報告並びに収支予測
公益法人制度改革への対応の件、名誉会長三笠宮殿下お申し出の件
副会長増員の件
- 2011年3月24日(木) 中止(総会と同じ事情)

4. 会員の異動(2011年3月31日現在)

正会員(現会員数: 73社)

特別会員(現会員数: 16社)

入会 無

退会	2011年2月15日付	第一出版㈱	正会員
	2010年6月30日付	㈱日本紙パルプ商事	特別会員
	2011年3月31日付	㈱福音館書店	正会員

自 2010年4月1日

至 2011年3月31日

2010年度決算報告書

東京都千代田区猿楽町一丁目2番1号
新日貿ビル
社団法人出版文化国際交流会

貸 借 対 照 表

平成 23 年 3 月 31 日現在 (決算)

法人名：出版文化国際交流会

事業名：事業全体

(単位： 円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資 産 の 部			
流 動 資 産			
現 金 預 金	8,180,268	8,487,144	△306,876
未 収 会 費 金		2,670,000	△2,670,000
未 収 入 金	4,588,531		4,588,531
仮 払 金	1,401,618	2,694,499	△1,292,881
流動資産合計	14,170,417	13,851,643	318,774
固 定 資 産			
特 定 資 産			
創立60周年記念事業預	4,712	3,004,660	△2,999,948
特定資産合計	4,712	3,004,660	△2,999,948
そ の 他 固 定 資 産			
什 器 備 品 金	168,940	311,194	△142,254
敷 出 資 金	1,632,027	1,632,027	
出 資 金	500,000	500,000	
その他固定資産合計	2,300,967	2,443,221	△142,254
固定資産合計	2,305,679	5,447,881	△3,142,202
資 産 合 計	16,476,096	19,299,524	△2,823,428
II 負 債 の 部			
流 動 負 債			
未 払 金	15,000		15,000
前 受 金	10,000	743,626	△733,626
職 員 預 金	82,225	153,085	△70,860
流動負債合計	107,225	896,711	△789,486
固 定 負 債			
退 職 給 与 引 当 金	9,046,952	11,339,537	△2,292,585
創立60周年記念事業準備金	4,712	3,004,660	△2,999,948
固定負債合計	9,051,664	14,344,197	△5,292,533
負 債 合 計	9,158,889	15,240,908	△6,082,019
III 正 味 財 産 の 部			
一 般 正 味 財 産	7,317,207	4,058,616	3,258,591
正 味 財 産 合 計	7,317,207	4,058,616	3,258,591
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	16,476,096	19,299,524	△2,823,428

正味財産増減計算書

平成22年 4月 1日から平成23年 3月31日（決算）まで

法人名：出版文化国際交流会

事業名：事業全体

（単位： 円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
經常増減の部			
經常収益			
受取会費	27,484,475	29,274,695	▲1,790,220
正会員会費収入	19,190,000	20,600,000	▲1,410,000
特別会費会費収入	750,000	840,000	▲90,000
特別賦課会費収入	7,544,475	7,834,695	▲290,220
事業収益	32,853,659	32,315,155	538,504
フランクフルトブックフェア参加収入	15,561,638	16,573,933	▲1,012,295
国際ブックフェア参加収入	2,866,955	610,319	2,256,636
国際交流基金預託金	14,005,066	15,130,903	▲1,125,837
海外視察団参加預託金	420,000		420,000
雑収益	102,526	161,522	▲58,996
受取利息	1,955	116,682	▲114,727
雑収入	100,571	44,840	55,731
經常収益計	60,440,660	61,751,372	▲1,310,712
經常費用			
事業費	35,883,791	46,728,558	▲10,844,767
フランクフルトブックフェア参加費	13,532,008	20,835,727	▲7,303,719
国際ブックフェア参加費	6,592,997	6,311,552	281,445
国際交流基金預託金	13,492,405	15,751,284	▲2,258,879
ODAブックフェア参加負担金	78,575	158,040	▲79,465
目録発行費	202,436	291,201	▲88,765
会報発行費	159,180	454,495	▲295,315
東京国際ブックフェア参加費	413,625	598,183	▲184,558
調査費	1,100,225	1,255,697	▲155,472
渉外費	312,340	1,072,379	▲760,039
管理費	26,590,811	38,522,808	▲11,931,997
給料手当	15,956,250	20,959,000	▲5,002,750
退職給付費用		5,377,518	▲5,377,518
福利厚生費	3,212,020	3,752,613	▲540,593
会議費	171,512	1,572,806	▲1,401,294
旅費交通費	844,940	851,570	▲6,630
通信運搬費	1,074,418	1,175,971	▲101,553
減価償却費	142,254	222,898	▲80,644
一般広告費		387,449	▲387,449
消耗品費	136,696	656,340	▲519,644
印刷費	206,592	162,912	43,680
光熱水料費	257,860	199,080	58,780
賃貸借料	2,043,684	2,134,440	▲90,756
保険料	6,327	22,477	▲16,150
慶弔費	6,500	5,500	1,000
租税公課	72,200	70,000	2,200
雑費	239,558	972,234	▲732,676
經常費用計	2,220,000		2,220,000
經常増減額	62,474,602	85,251,366	▲22,776,764
評価損益等調整前当期經常増減額	▲2,033,942	▲23,499,994	21,466,052
評価損益等計	0	0	0
当期經常増減額	▲2,033,942	▲23,499,994	21,466,052
經常外増減の部			
經常外収益			
その他經常外収益	5,292,533	6,434,631	▲1,142,098
特定事業のための取崩収入	2,999,948	6,434,631	▲3,434,683
退職給与引当金戻入益	2,292,585		2,292,585

正味財産増減計算書

平成22年 4月 1日から平成23年 3月31日（決算）まで

法人名：出版文化国際交流会

事業名：事業全体

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
経 常 外 収 益 計	5,292,533	6,434,631	△1,142,098
経 常 外 費 用			
固 定 資 産 廃 棄 損	0	48,809	△48,809
固 定 資 産 廃 棄 損		48,809	△48,809
経 常 外 費 用 計	0	48,809	△48,809
当 期 経 常 外 増 減 額	5,292,533	6,385,822	△1,093,289
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	3,258,591	△17,114,172	20,372,763
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	4,058,616	21,172,788	△17,114,172
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	7,317,207	4,058,616	3,258,591
II 指 定 正 味 財 産 増 減 の 部			
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	0	0	0
III 正 味 財 産 期 末 残 高	7,317,207	4,058,616	3,258,591

財 産 目 録

平成 23 年 3 月 31 日現在 (決算)

法人名：出版文化国際交流会

事業名：事業全体

(単位： 円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金手元有高			51,420
座預金	三菱東京UFJ銀行	神保町支店	30,000
	三井住友銀行	神田支店	27,507
普通預金	文化産業信用組合	本店	124,633
	三菱東京UFJ銀行	新宿西支店	4,141,578
	三井住友銀行	神田支店	481,067
	三井住友銀行	神田支店 (納本口)	2,624,750
郵便貯金			9,313
定期積金	文化産業信用組合	本店	690,000
未収入金	国際交流基金		4,588,531
仮払金			1,401,618
流動資産合計			14,170,417
(固定資産)			
特定資産	創立60周年記念事業預	文化産業信用組合 本店	4,712
その他固定資産	什器備品	NECパソコン・VC550J 1台	1
		応接セット 1台	1
		NECパソコン一式 1台	1
		東芝パソコン一式 1台	1
		FAXプリンター機 1台	1
		デスクトップパソコン一式 1台	29,149
		ノートPC・無線LAN一式 1台	93,730
		WinXP CD 1ヶ	46,056
	敷出資	日本出版貿易株式会社 事務所敷金	1,632,027
		文化産業信用組合 本店	500,000
固定資産合計			2,305,679
資産合計			16,476,096
(流動負債)			
未払金			15,000
前受金	鹿島国際著作権事務	平成23年4月分会費	10,000
職員預金		源泉所得税・住民税・社会保険料	82,225
流動負債合計			107,225
(固定負債)			
	退職給与引当金		9,046,952
	創立60周年記念事業準備金		4,712
固定負債合計			9,051,664
負債合計			9,158,889
正味財産			7,317,207

収 支 計 算 書

平成22年 4月 1日から平成23年 3月31日 (決算) まで

法人名：出版文化国際交流会
事業名：事業全体

(単位： 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考	執行率
I 事業活動収支の部					
事業活動収入					
会費収入	28,640,000	27,484,475	1,155,525		96.0
正会員会費収入	20,000,000	19,190,000	810,000		96.0
特別会員会費収入	840,000	750,000	90,000		89.3
賛助会員会費収入	7,800,000	7,544,475	255,525		96.7
事業収入	33,070,000	32,853,659	216,341		99.3
フランクフルトブックフェア参加収入	16,500,000	15,561,638	938,362		94.3
国際ブックフェア参加収入	1,820,000	2,866,955	△1,046,955		157.5
国際交流基金預託金	14,300,000	14,005,066	294,934		97.9
海外視察団参加預託金	450,000	420,000	30,000		93.3
雑収入	180,000	102,218	77,782		56.8
受取利息収入	50,000	1,647	48,353		3.3
雑収入	130,000	100,571	29,429		77.4
事業活動収入計	61,890,000	60,440,352	1,449,648		97.7
事業活動支出					
事業費支出	36,730,000	35,883,791	846,209		97.7
フランクフルトブックフェア参加費支出	16,500,000	13,532,008	2,967,992		82.0
国際ブックフェア参加費支出	4,500,000	6,592,997	△2,092,997		146.5
国際交流基金預託金	14,300,000	13,492,405	807,595		94.4
ODAブックフェア参加費支出	150,000	78,575	71,425		52.4
目録発行費支出	185,000	202,436	△17,436		109.4
会報発行費支出	215,000	159,180	55,820		74.0
東京国際ブックフェア参加費支出	300,000	413,625	△113,625		137.9
調査費支出	370,000	1,100,225	△730,225		297.4
渉外費支出	210,000	312,340	△102,340		148.7
管理費支出	23,605,000	26,448,557	△2,843,557		112.0
給料手当支出	15,850,000	15,956,250	△106,250		100.7
福利厚生費支出	2,796,000	3,212,020	△416,020		114.9
会議費支出	200,000	171,512	28,488		85.8
旅費交通費支出	900,000	844,940	55,060		93.9
通信運搬費支出	800,000	1,074,418	△274,418		134.3
消耗品費支出	300,000	136,696	163,304		45.6
印刷製本費支出	175,000	206,592	△31,592		118.1
光熱水料費支出	200,000	257,860	△57,860		128.9
賃借料支出	1,884,000	2,043,684	△159,684		108.5
保険料支出	20,000	6,327	13,673		31.6
慶弔費支出	10,000	6,500	3,500		65.0
租税公課支出	70,000	72,200	△2,200		103.1
雑支出	400,000	2,459,558	△2,059,558		614.9
事業活動支出計	60,335,000	62,332,348	△1,997,348		103.3
事業活動収支差額	1,555,000	△1,891,996	3,446,996		△121.7
II 投資活動収支の部					
投資活動収入					
特定資産取崩収入	0	3,000,256	△3,000,256		
創立60周年記念事業預取崩収入		3,000,256	△3,000,256		
投資活動収入計	0	3,000,256	△3,000,256		
投資活動収支差額	0	3,000,256	△3,000,256		
III 財務活動収支の部					
財務活動収支差額	0	0	0		
IV 予備費支出					
当期収支差額	1,555,000	1,108,260	446,740		71.3
前期繰越収支差額	12,954,932	12,954,932	0		100.0
次期繰越収支差額	14,509,932	14,063,192	446,740		96.9

収支計算書に対する注記

法人名：出版文化国際交流会
事業名：事業全体

1. 資金の範囲

資金の範囲には、現金預金、未収会費、未収入金、仮払金、未払金、前受金及び職員預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産及び負債の内訳

科 目	前期末残高	当期末残高
現金・預金	8,487,144	8,180,268
未収会費	2,670,000	0
未収入金	0	4,588,531
仮払金	2,694,499	1,401,618
未払金	0	△15,000
前受金	△743,626	△10,000
職員預り金	△153,085	△82,225
次期繰越収支差額	12,954,932	14,063,192

財務諸表に対する注記

法人名：出版文化国際交流会
事業名：事業全体

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法
有価証券の評価基準及び評価方法について
該当なし
- (2) 固定資産の減価償却の方法
什器備品
定率法、直接法による減価償却を実施している。
- (3) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産	0	0	0	0
小 計	0	0	0	0
特定資産	0	0	0	0
創立60周年記念事業準備金	3,004,660	0	2,999,948	4,712
合 計	3,004,660	0	2,999,948	4,712

3. 担保に供している資産

該当なし

4. 保証債務等の偶発債務

該当なし